

## Ms. Marina Kappos

マリナ・カポスさん(アーティスト)

カリフォルニア芸術大学、イエール大学でアートを学ぶ。主な個展に『ア・マダー・オブ・クロウズ』(2005年)。昨年、トーキョーワンダーサイト渋谷で『マリナ・カポス展』を開催した

## Ms. Mara McCarthy

マール・マッカーシーさん(ギャラリスト)

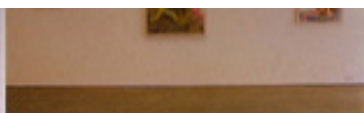
過激なパフォーマンスで知られる西海岸のアーティスト、ポール・マッカーシーを父に持つ。2007年6月、ギャラリー兼エデュケーション・スペースの“ザ・ボックス”をLAにオープン

注目アーティスト、マリナ・カポスさんがご案内

# ギャラリー密集エリア、 カルバーシティ&チャイナタウンへ

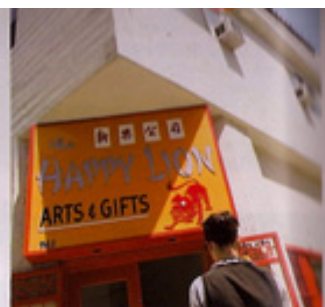
現代アートの魅力をリアルに感じるには、やはりギャラリー・クルーズがいちばん。ロサンゼルスのアートシーンを牽引するふたつのエリアで、いま最も注目されているギャラリーをご紹介します。





# China Town

チャイナタウン



「廣直高 Naotaka Hiro」 courtesy MISAOKO & ROSEN and the artist

## The Box

ザ・ボックス

### アーティストの実験を支援する、新しいオルタナティブ・スペース

昨年6月にオープンしたこのスペースは、普通の商業ギャラリーとは異なった運営方針が特色。決まった所属アーティストはなく、多くの作家の実験的な試みに発表の場を与えるのが目的だ。オーナーのマーラ・マッカーシーさんが目指すのは、「アーティストや観客の意見を取り入れた場」という。訪問した時は、大阪出身でロサンゼルスで活動する廣直高のショーを開催中。「廣さんの作品は、去年東京に滞在したときにも見て、とても印象的だった」と語るマリーナさん。アートビジネスだけでは語れない活動が、ロサンゼルスに異行きを与えている。



a 廣直高のビデオ・インスタレーション作品。b スカルをモチーフにした立体作品も。廣直高はマリーナさんと同じCALARTS（カリフォルニア芸術大学）の出身。c ビデオ作品に興味深そうに鑑賞。d オーナーのマーラさんが作品のコンセプトを解説してくれた

